

## 資料名：新宿区文化芸術振興会議（第4回）議事 要旨

■日時 平成23年11月14日（月） 午後2時から午後4時15分まで

■会場 新宿区役所本庁舎5階大会議室

■出席者

委員：高階会長、垣内副会長、星山委員、高取委員、乗松委員、松本委員、  
大和委員、小口委員、佐藤委員、舟橋委員

有識者：公益財団法人佐藤国際文化育英財団佐藤美術館立島恵学芸部長  
神楽坂まち飛びフェスタ実行委員会日置圭子委員長

事務局等：加賀美地域文化部長事務代理、山田文化観光国際課長、藤牧新宿未来創造  
財団等担当部長、鯨井新宿未来創造財団等担当課長、磯野文化観光国際係長、  
石塚文化資源係長、原文化観光国際主査、北見主任、楠原主任

■欠席委員：石丸委員

■開会

1 開会

- (1) 高階会長が振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 高階会長から、本日の主要な議事は、第2回会議で調査審議事項として決定した「新宿フィールドミュージアム」の実施状況を踏まえて、これからの更なる可能性について議論を進め、次年度の取組みの方向性を振興会議として明らかにすることであることを確認を行った。  
また、本日の進行について、次第に沿って進行すること及び審議を効率的に進めるため、次第の議事(2)から(3)までを一括して審議することを確認した。
- (3) 高階会長から、新宿区文化芸術振興会議規則第5条第4項に基づき、委員以外の者に意見を伺うこと及びフィールドミュージアム協議会参加団体である、公益財団法人佐藤国際文化育英財団佐藤美術館の立島恵学芸部長及び神楽坂まち飛びフェスタの日置圭子実行委員長の紹介があった。
- (4) 9月1日付けで、酒井前事務局長の後任として着任した加賀美秋彦事務局長が委員へあいさつを行った。

2 議事（要旨）

ア 第3回会議内容の確認について

議事概要、議事要旨のとおり承認を受けた。

イ 振興会議の運営（進め方）について

専門部会からの報告について、特に質疑はなかった。

## ウ 振興会議独自の調査・研究テーマ「新宿フィールドミュージアム」について

資料３－１から３－６までに基づいて、専門部会長が説明を行った。資料の詳細については、事務局が説明を行った。なお、次第①から③までは、時間を有効に活用するため、一括して説明を行った。

＊注） 以下、次のとおり略称を用いる。

「FM」：来て・見て・楽しい 新宿フィールドミュージアム

「協議会」：来て・見て・楽しい 新宿フィールドミュージアム協議会

## エ FMの取組みの紹介

協議会に参加し、文化月間イベントを行った、遊びと文化の NPO 新宿子ども劇場の乗松理事長、神楽坂まち飛びフェスタ実行委員会の日置委員長、佐藤美術館の立島学芸部長に、それぞれの取組み状況について紹介していただいた。

### 【新宿子ども劇場】

- ・特に震災後、文化が地域コミュニティの再生に繋がるのではないかと考えに基づき、私達のイベントの趣旨は、子どもの生活圏での文化活動を行うことにある。
- ・区民である会員一人一人が自主性及び創造性を発揮して主体的に公演に取り組んだ。
- ・身近な場所が仕掛け次第で文化の場となるのではないかという考えで、普段使う大きなホールや地域ホールではなく、普段使わない身近な場所での公演を心がけた。
- ・実際に、町会の施設、幼稚園の遊戯室、乳児院で公演を行うとともに、普段文化に触れる機会の少ない乳児院の子どもと先生を招待した。
- ・FMのガイドブック持参で参加されたという方も多く見られた。
- ・FMのロゴマークを使ったカラーチラシを人海戦術で 1,500 枚配付したが、外部から 90 名来た。普段のチラシ枚数で言ったら信じられないほどの効果で、随分外部の反応があったと思う。
- ・FMは、自分達の活動のアピールに、多いに役に立った。
- ・協議会で接点のできた都立総合芸術高校に自分達の活動を理解していただき、FM以外のイベントに高校の生徒に参加していただける運びとなった。
- ・イベントのため、子ども達の会議を行ったが、高校生が主体的になって、小学生や中学生が参加する中で主導権を発揮し、新しい風を送り込むという形で、いいシナジー効果が生まれていることを感じた。

### 【神楽坂まち飛びフェスタ実行委員会】

- ・自分達の「神楽坂まち飛びフェスタ」は、今年 13 回目を迎えた。
- ・まちづくり、文化企画、事業的なものと 3 つの活動を連携を図りながら、神楽坂で活動を進めている。
- ・神楽坂は、今でこそ本当に新宿区の有数の繁華街になって元気だが、13 年前は、このまま行くと本当にシャッター商店街になってしまうというような危機感を皆が持った。

- 地元のギャラリー、タウン誌の方等の有志の方達が、神楽坂は本来、掘り起こせばもっともって文化の魅力がある、特に芸術面でも色々な、本当に有名な画家の方たちが集ったり等の歴史があるので、いわゆるアートイベントの走りの時期だったと思うが、先駆的なアートイベントとして、まち飛びフェスタの元になるイベントを始めた。
- 13 年間変わらずに続くのが、メインイベント「坂にお絵描き」で、「まち飛びフェスタ」最終日の文化の日に開催する。
- 神楽坂通りの 700 メートルの並木道に 1 本のロール紙を敷き、絵の具等を置き、2 時間半位、子どもからお年寄りまで自由にお絵描きしてくださいというイベントである。
- そこに色々なパフォーマンスが付いたりして、どんどん発展し、今は名物イベントとして、本当にこんなに神楽坂に子どもたちがいたのかと思う位の子ども達が、親子連れで毎年楽しみにお絵かきに来てくれる。
- イベント全体としては今年 75 イベント、多い年には 100 近くあった。
- 審査基準もなく、4 つ位の規約として、決められたエリア内で文化的なイベントをする、営利を第一主義としない、公序良俗に反さない等程度の縛りで、本当に自由に加わってもらおうということで、公募をかけてイベントを集めている。
- ガイドの見開きの最初のところで、これだけは毎年続けていくことで神楽坂らしさを出していこうというメインイベント「坂にお絵描き」、「ザ・お座敷入門」、「アートマーケット」の 3 つだけを実行委員会がやり、あと 72 イベントは自由に加わってくださいという形式である。
- 実行委員会が、参加イベントを伝統、落語、展示、体験、音楽等のカテゴリに分ける。
- ガイドでは、各カテゴリの最初にコラムを付け、これを読むことで、神楽坂の多様な文化が、まちでどう育ち、今元気なのかというようなことがわかるように編集している。
- 今年の特徴として、震災関係のものがあ、ロコミ等で、復興絡みの企画が 5 つ程度自然に入ってきた。
- こういうイベントは、一般的には商店街、観光協会等の主催が多いと思う。商店街の道路を 700 メートルも使うことは、有志のボランティアだけでやるものとしては、あまりないと思う。
- 13 年間、全く有志の人達によって、どこからも一切お金をいただきず、いわゆる助成金というものがない、協賛金とかだけで開催するイベントである。
- 実行委員は年々増える一方で、今 30 名位いる。例えばプロの編集者が殆んど実費でプログラムの編集を行う等、それぞれ自分のやりたい又は専門分野で頑張る形式である。
- 「坂にお絵描き」が、特に若い人が必要で、今年だと、学生とか若い方を中心に 60 名弱のボランティアを公募したが、色々な伝手で集まってくれた。
- 13 年やっていて、やはり一番の問題が資金面である。ある意味紐付きでないことはありがたいが。
- 予算もなかなか確保し辛い。そのため、サポーターバッジコンペを行っている。
- サポーターバッジのデザインコンペを行う。全国から毎年 100 以上の応募があるが、その中からグランプリ作品を選び、その年のマークにしてバッジにするシステム。これを 1 個 500 円で売り、収益金を実行委員会の費用にする。

- 買った人も、このバッジをつけて参加意識を高めてもらう。
- それだけでは少し足りないので、昨年から実行委員会が主導してグッズを作っている。
- FMと非常に構造が似ていて、地域でやるものを集めてということなので、今回も協議会に入ってよかった。
- FMがどれくらい集客に影響したか、今数字では出ないが、新宿の1つのイベントとして今後とも協力させていただけたらと思う。
- 「坂にお絵描き」は、プログラムを近隣の小学校、保育園、幼稚園に配布しているが、ほとんどロコミの世界で人が集まってくれていると思う。区外からも多分いっぱい来ていると思う。

#### 【佐藤美術館】

- 5年位前からプレスリリースをあまりしていないが、NHK等でも取り上げていただき、メディアを経由してある程度認知度というのが高まっているかなと思う。
- 佐藤美術館、佐藤国際文化育英財団の設立の経緯としては、大阪・鶴見緑地の花の万博があって、その中で日本画美術館というパビリオンを作って、現代日本画の非常に有名な画家の作品を一堂に集め公開したが、それを永久保存するために作られた。ただ見せるだけの美術館にならないように、その画家達の後の世代の方々を育成できるような奨学金・奨学育英プログラムを作ったということで、スタートした。
- 21年やってきて、毎年17名に2年間支給という奨学金のプログラムとなっている。
- お金も大事だが、若い芸術家が社会に羽ばたく時に、一番大事なのはやはり発表の場であろうということで、我々が彼らを見ながら展覧会の企画をするということを継続的にやってきた。
- FMの事業の中の、奨学生美術展というのは、まさにそういう趣旨から生まれたもので、20年前に、奨学金を2年間支給する2年目の年の研究発表展という位置付けで、社会に自分の新しい表現を示し、世に問うて、画家としてスタートをしてもらおうと企画してきた。
- この展覧会においては、招待作家という制度をとっている。過去の奨学生が今どうしているのかを、我々学芸員がリサーチをし、作家の節目節目で招待をして、世代を超えた芸術家同士の交流をしてもらおうという趣旨で、毎年2人招待作家を選出する。
- 17名+2人で19名の作品について、奨学生美術展の中で買上賞というのを出し、それも奨学金みたいなものだが、優秀作品を1、2名を選出して、そこにまた更に奨学金を支給して作品を買い上げ、それを収蔵して、また定期的にどこかでその公開をするというような事業をやってきた。
- 奨学生美術展は、10月16日にアーティストトーク、10月23日に講演会という2つのイベントを行う。
- アーティストトークは、出品者が作品について語ると同時に、来館者、ギャラリーの方と交流する場である。創った作家が間近にいて、一般の来館者が交流するというのはすごく大事なことでと思うので、積極的に行う。
- 今年は講演会だったが、いつもだと若い作家たちが世に出るに際して、色々な勉強会を

している。例えば、留学をするにはどうしたらいいか、銀座・青山等のギャラリーで展覧会するには、どういう事を留意したらいいか等である。

- 他にも、印刷物の作り方等について、専門家を招いて講演をする。それは作家のためにはあるが、一般の方にも声かけをして、そこで交流の場を作るという事もやっている。
- 今年は大震災があったが、岩手県立美術館の学芸課長と佐藤美術館は非常に交流があり、そちらは大丈夫かというような話から、美術館自体は被災しなかったが、被災者のために美術館予算が全部カットされ、その中で美術館はどう活動をするのかということを考えながら模索をして、そういう中で今日まで事業してきたというお話もあった。そういう話も皆さんに聞いていただければということで、交流会も行ってきた。
- 明日からの神戸智行展「イノセントワールド」という展覧会だが、この神戸智行も、12年前の佐藤美術館の奨学生であった方。
- 我々が彼を注視していく中で、今回その個展をすることになった。非常に美しい日本画を描く方なので、ぜひお越しいただければと思う。
- 奨学生美術展は、FMのロゴが残念ながら間に合わず、掲載ができなかった。神戸智行展は、フライヤー、ポスター、チケットにもロゴを掲載できた。
- 奨学生美術展の入場者数は、実質開館日数 35 日間ということで、総入場者数 2,105 名、1 日平均 58.5 名という結果。過去の奨学生展と比べると、ほぼ横ばいという感じで、正直、少し特殊な美術館での活動ということで、少し時間がかかるのかなとは思っており、また継続して協議会に参加させていただければと思っている。
- 美術館でアンケートをとっており、その中に FM で見たというアンケートが何通か入っていた。
- その中の 1 通に、「日本における美術の将来を考えさせられました」という 46 歳男性の会社員の方のコメントがあり、非常にありがたいことだと思った。
- 中々接点がない若い作家と一般の人達で接点を持っていたかなくてはと思うので、FM に参加できたことは非常にありがたい。ぜひ継続して参加を希望する。
- 神楽坂で今、非常にギャラリーが増えており、佐藤美術館関係の作家も、神楽坂のギャラリーで展覧会等をよくやっているし、その画廊主も佐藤美術館との交流があるので、今後、粋まちとも何か接点ができたり、一緒に活動ができればと願っている。

## オ 意見交換（要旨）

- 奨学生美術展をずっとやっておられて、大変大事なおものだと思うが、美術館が行きにくいところであるが、1 日 60 名近くの来場者と、なかなか頑張っておられる。
- やはりネットワークということ。特に佐藤美術館は色々つながりが出ている。FM 以外でも V O C A 展、東郷青児美術館の新しい構造展等もつながってくる。
- 今年は試行実施ということで FM をやって、1 つは可視化。ガイドがかなりの部数、作られて、新宿というのはすごく色々なことをあちこちでやっているということも、改めてわかったということで、本当にスタート台に立ったかなという気がした。

- その効果をどうやって上げていくかはこれから。どうやったらFMが、変わってくるか。
- 多分かなりのイベントが、従来からやっているものということだが、それらがもっと知られてくるということで、来場者が増えるとか、この機会に少しやり方を変えてみようとか色々な事があると思う。
- 区民の側も主催者も、どういうふうにして変化を生み出していくのか。変化を生み出すことをうまく仕掛けられたりできれば、年々いいものになってくると思った。
- スタートとしてFMの基礎の部分をやって、もう既にいいものが沢山あるから、それらを、参加する市民の側も含めて、どのように変化をさせていくのかと思っている。
- あとは、メリハリ。沢山並んでしまうと、そういう変化をとらえるため、又はこれは変化が期待できるなというようなものについて、人的あるいは経済的に何らかの支援をする。今年はこの辺が新宿として目玉にしたいというようなものとか。
- まち飛びフェスタみたいに13年もやってきて、あそこまでできていると、もうかなりのレベルすごいと思う。そういうように、これからやりたいというような地域があるかもしれないが、区全体というよりはやはり広過ぎて中々難しいと改めて思った。
- 杉並区阿佐ヶ谷にジャズフェスティバルがあるが、すごいなと思った。やはり阿佐ヶ谷位の地域規模で、市民参加で色々やったらやはりすごいものができるなと思った。
- 地域単位でいいものをしっかり育てていくということが大事なような気がして、中々区全体ではできないが、地域ならば色々やりようがあるというようなことも思った。
- 新宿文化ロードの位置付が、FMの中では気になる。このFMのまま行けそうな感じなので、文化ロード等既存の区の施策については整理するものも出てくるかと思う。
- まだ途中経過だが、評価については、一参加者、FM参加各団体、ネットワークと多分3つのレベルがある。
- 消防博物館と落語芸術協会、神楽坂と佐藤美術館、子ども劇場と総合芸術高校と、もう3つも連携の芽が出てきたというのは、思ったより早いと思っていて、これはもう大事に育てていかなければいけないと思っている。
- 実際にこういう可視化を行ってみると、もう次のステップが明らかになっていると思う。
- 例えば、ガイドブックには、東郷青児美術館が新宿文化ロードイベントの1つとして載っているが、佐藤美術館は別に単独で載り、オペラシティ美術館は載っていない。
- ガイドブックはイベント視点で捉えているが、例えば専門拠点視点みたいな、美術館グループ、劇場グループと、イベントとをうまく出し方を使い分ける工夫も必要。
- 美術館も、その枠を超える連携もあるが、美術館は美術館で何かネットワークを深めるような、そういうガイドの作り方もあるかなと思った。
- 神楽坂は、すごい実績があって、もう地域フェスティバルの位置付けができている。
- やはり新宿文化ロードは、次の展開でフィールドミュージアムの中で発展していくみたいに考えていて、何か次のステップに行くいい機会だったかなと思っている。
- オペラシティアートギャラリーは、新宿区。あそこは不思議な所で新国立劇場は渋谷区。あのギャラリーを境に区が分かれる。
- オペラシティアートギャラリーは、いいのをやっているから、それは美術館同士として、また合わせて渋谷区も取り込んでしまうというようなのもありかと思う。

- 総合芸術高校のプロムナードギャラリー展の会場は、新宿西口イベントコーナーの真裏だが、普段意外と人通りが多いエリアである。本校は、開催初回にもかかわらず、このような場所を会場として使うことができた。
- 高校生の作品を表で発表できる場を探しており、大変光栄に思った。
- 何回か足を運んだが、若者達が結構来ていた。本校の生徒ではなく、お兄さんお姉さんの代だった。新宿という土地柄で、西口には宝塚大学、デザインの専門学校もあり、その辺り学生だろうと思ったが、高校生の絵じゃない、これはすごいという話が聞こえた。
- 本校は、都立で唯一の専門の高校だが、決して一色に染めずに、その子の個性をそのまま伸ばしているという自負がある。外の評判・評価といったものが、子ども達にとっては最大の励みになるので、今後も継続してこのような機会を持ちたいと思っている。
- 絵画、油彩、日本画、デザインと彫刻の4つの専攻の作品を発表したが、第5の専攻が本校の1つの目玉の映像系で、こういうギャラリー風の所では中々そういった作品発表ができない。
- 10月に銀座のアップルストアを借りて、レクチャーホールの中で発表を行った。ちょうどジョブス氏の亡くなった直後で、献花の方とiPhoneの新製品の発表会の直後で、長蛇の列だったが、その人達が、レクチャーホールに参加者として集まってくれて、立ち見が出るほどだった。
- 高校1、2年生の映像系の作品を銀座で発表したというのは、大きな意味があったと思うが、新宿でもぜひそのような場所をご提供いただければと思っている。
- 文化祭だが、10月22、23日と2日間行った。参加者は、去年は1,300何名かだったが、今年は恐らく2,000名を超えたのではないか。昨年よりも遥かに認知度が高まった。生徒自体が増えて保護者や親戚が多くなったというのはあるかもしれないが、いずれにしろ観客が5割増となった。
- 文化祭のポスターとパンフレットにはFMのロゴマークを入れた。FMのパンフレットもいただいて、すぐに保護者に配った。
- この効果の1つとして、FMの「講談とまち歩きで楽しむ神楽坂」に保護者が注目し、全くこれと同内容で、独自にガイドツアーを11月5日に行ない、30数名が参加した。
- こういうことが注目され、花開いて、実際に保護者の連絡網の中でそういう数が現実的に参加したということは、ガイドブックの派生した効果と思う。
- 私もこの1年半神楽坂に勤務しているが、大体家に戻る時間よりも神楽坂にいる時間がはるかに多いが、初めて知ることばかりだった。
- 先ほどの「坂にお絵描き」の話は、ぜひこういう機会なので、それこそほっといたら、ここに描いていいよと言ったらとめどもなく絵を描いてしまう子ども達なので、きっとお手伝いできると思う。
- 来年は、少なくとも夏休み前に連絡を取り、調整をさせていただければと思う。小中学生とも連携をしたいし、イベントの方にもぜひ協力をさせていただければと思う。
- このロゴマークを作ったのは非常によかった。
- 区民、区外から来られる方も含めて、PRが大事だと話があったが、内部で実際に活動する方同士の連携にも大変役に立っている。

- お互いに相乗効果もあるだろうし、その意味でも、このフィールドミュージアムの取り組みは意義あったと思う。
- このガイドブックができて、このFMが具体的な活動になったということについては、非常に大きな成果だったのではないかなと思う
- ガイドブックを見て、こんなに沢山のものが実際に行われていたのかということ、改めて認識をした。
- 時間的に間に合わなくてロゴが載せられなかったということも、多分たくさんあったのではないかなという気がした。
- あまり知らなかったイベントに幾つか足を運んでみたが、残念ながらFMのロゴも言葉も殆ど載ってなくて、これまでの活動に参加表明だけだったところもあったのかなという感じがした。
- そのあたりが主体者側に、どの位意識されていたのかというところを少し疑問に思っていたが、今日、お話を聞いて、こういう活動への参加が望ましいということも、ネットワークも非常に意味があるということも、よく理解していらっしゃり、条例のコンセプトへの共感が十分にあるのだなということも認識をした。
- 1回目ということで、とにかく大きな括りとしてまとめていこうということの成果は大変得られた。
- 2回目以降、大きな括りにしたことの意味をどこまで説明し、共感を得られるかというところが大切だと思っている。
- 実際に活動をされている方達、見に来られている方達は、ちょっとした説明で十分ご理解いただけると思うが、通常の生活をしていると、実はこのチラシ、ポスターを見る機会があまりないのではないかな。
- そういった多くの方々に、フィールドミュージアムということでの括りをした意味を伝えていくというような仕掛けが必要だろうと思う。
- チラシとかポスターの部数が大変少ないと思った。こういう印刷物に関しては、やはりある程度の限界値を超えないと効果が出てこないということがあるので、予算との兼ね合いもあるが、ボリューム感を出すかということ工夫していく必要があると思う。
- 若い人を取り込もうとすれば、最近、ツイッターとか、SNSのような仕掛けが世の中にどんどん出てきているので、個々の活動ごとに使っていき、それからFM全体としてのまとめ方がうまく連動していくといいと思った。
- 告知は、繰り返し、あるいは余計と思われることをやる必要がどうしてもある。
- 様々な参加事業の間の連携ということは、大事なことだと思う。
- 私には、今までこういうパンフレットはなくても、この時期になると毎年参加するものが結構あるが、たまたま街を歩いていて、音楽が聞こえてきたので足を止めて参加をするとか、後はもう毎回決まっているような行事にはどうしてもやっぱり行ってみようというふうに参加をするというのが、普通の区民の発想ではないかなと思う。
- イベントには、無料・有料、事前申し込み・現地参加等の色々区別があるので、全部同じように告知をしたりPRをするというのは、もう少し考えたほうがいいのではないかな。
- ロゴとロゴマークのことだが、時間がなかったので仕方がないかもしれないが、先ほど

神楽坂のバジデザインコンペのお話を聞いた時に、全国から応募があるということで、全国ではなくても新宿区広報等で公募したら、その新宿フィールドミュージアムって何だろうと思う人が、デザインに興味がなくとも、FMに興味を持つきっかけになるのではないかなと思ったので、少し残念な気がした。

- 8月に決められたということで、マークがいいとか悪いとかではなく、もっと違う方法をとって見たら、もっと効果があったのではないかなと感じた。
- 佐藤美術館には年中行っているが、若い方のアート、トークはとても熱気があった。そういうものをこの月間に開催したのはとても意味があったのではないか
- 普通の展覧会をやるのもいいが、そういう普段聞くことができないようなものに参加できたというのは、とてもよかったと思う。
- 例えば、音楽ならリハーサルを、芝居なら稽古風景を見せるとか、日頃とは少し違うイベントを打つと、もっと親近感が湧くかと思った。
- FMも、何か新宿らしい目玉になるようなものを1つ2つ行うこと、今まで継続されているものの中から選んでもよいし、改めてそういうものをやるのもいい。それに今まであるイベントがついてくるというやり方が、すごくいい。まち飛びフェスタは、私はヒントになったなという思いがした。
- ロゴマークについては、宝塚大学の学生の作品が300点余り集まったという。一般公募という手もちろなあつたと思うが、10月にフェスティバルをやるとなると、どうしても時間の制約があるし、そういう意味では、よく間に合ったという感じがある。
- もっと色々な広い規模でということは、マークだけではなく、他のイベントにも何か考えられるかもしれない。新宿に関する文化芸術活動の他にも、例えば歴史的な問題、文化財保護とかに、そういう広い公募も含めた活動が色々と考えられると思う。
- 新宿区合唱連盟では東日本大震災の影響により、合唱祭を9月17日に開催した。本当に大盛況で1,500人の参加者を記録した。皆様に感謝いたしたいと思う。
- 私達もFMに何らかの形で参加したかったが、そのため、来年度に持ち越そうということになった。
- FMに参加できないということなので、チラシ等を合唱連盟の参加団体の皆さんに渡して、個人個人で何らかのイベントに参加していただくように呼びかけた。
- 結果、感想とかはまだよくわからないが、相当の人数が参加できたと思う。
- このロゴマークは、皆さんに浸透するのに効果的なマークだったのではないかなと思っている。区外に、これがどの程度浸透しているというか、そちらのほうは、どうか。
- (事務局) ハンディガイドについては、ちょっと今手元に数字の資料を持っていないが、大体5,000部位は駅置きというような形で、区外に撒けたかと思う。
- やはり直接お渡しした方がよろしいのか。
- (事務局) 広く薄くということになると、やはりもっと部数が必要かとも思うし、こうした文化的なものに関心を持っている人に、どうやれば効果的に手に渡ることかという方法もあると思うので、その辺はまた今日の意見を聞いた中で、より効果的なやり方を整理していきたい。
- この赤い表紙の「五感で楽しむ新宿観光マップ」がある。これを千葉県の人が、こんな

に新宿ってすばらしいところなので、ぜひ行ってみたらいいよということで送ってきた。だから、こういうのも、きっと配れば、非常に効果があるかなと思った。

- 新宿、私たち区民というコンセプトがあったけど、近県から通勤で、昼間はむしろ都心という方もいっぱいいるわけで、近県の駅置きというのは、あれば皆さん持って行くらしいので、部数なりあれなりもう少し研究していただければいいと思う。
- 私達の文化キャンペーンも都内で取り組んでいるが、実際定着するには3年かかった。4カ年継続して予算をいただけるというのは、非常に大きな事と思う。
- 私達のミッションは、全ての子ども達に文化をということだが、子ども達が文化を受け取る場合には、必ず保護者の大人の手が介在すると思うので、子ども達に届けたくても大人が取るか否かというのは大きい。
- 子育て世代の方に、ガイドブックを見たかということを経験したら、見ましたということだが、中を見ることはなかった。パッと表紙を見た時に、自分の子ども達に関係あるものがあるかがわかり辛かったということだった。
- 手にとるかとならないか、対象年齢がどうかというのが結構重要なポイントで、それはすごくありがたい意見だった。
- 子育ての世代は忙しいので、手にしても中まで一々見るというのが難しいのかなというのが実感だった。
- パッと見て一目でわかる方が効果的という気がするので、子どもも対象だというのが明らかにわかるとか、パッと見ても対象がどの年代かわかるというか、その辺改善をしていただきたいと思う。
- 「まち飛びフェスタ」のガイドはいい、子どもが絵を描いている写真が載っている。
- FMは1つの概念。それを具体化するのは協議会で、協議会がこのパンフレットを作っている。それがどういう基準で、こういう色々なイベントをまとめたのかと思った。
- ガイドブックには、早稲田大学のフェスティバルも出ているが、美術館とか演劇博物館等で色々やっているのは、省略されているが、それはいい。
- それは別にこれだけ出れば構わないとも言えるが、むしろ、工学院大学で今和次郎展をやっていたが、新宿に直接関係ないと言えばそうだが、工学院大学は新宿にあり、そこでのいい展覧会なので、そういうものも取り込んでいったらいいのではないかな。
- 今日は主に10・11月の文化月間の話だが、この新宿観光マップの中に、FMとして紹介していきたいようなものも、入れたらいいかなと思う。
- 例えば、今回地域文化財として認定された末広亭や六桜社が今日の資料にある。立場上、私も見に行ったが、場所を知っているのも、知らないのもあった。なかなか見つけれないところもあって、地図があったらと思った。
- そうすることで、フィールドミュージアムの1つとして、文化財的なものを取り込んでいただきたい。また、増えたら追加していただきたい。
- ミュージアムというのはイベントの場所でもあるし、本来は、常設の場所。区内の様々な文化遺産、早稲田の演劇博物館もあるし、ガイドブックの場合、色々なやり方があると思う。
- 本当にまち飛びフェスタでも13年前から今まで、悩みに悩んで試行錯誤をして、やっ

とここ1～2年でこういう形になったかなというので、時間がかかるのは仕方がないが、今回のガイドブックの形は、ちょっと失礼な言い方だが、本当にただ寄せ集めて並べた、エクセルの表を見せられているのとあまり変わらないという感じがする。

- まち飛びフェスタが13年続いてきた要因の一つは、愚直な位に、何のためにやるイベントなのか、何をやりたいからこれをやっているのかというのを、毎年の最初の実行委員会で徹底的に話をして、それをどうやってパンフの中に入れていくかということ、何をやりたいからこう集めるのかという事を繰り返してきたことかなと思っている。
- ガイドブックの最初の方に事業趣旨があるが、これは普通の人はず読まないの、普通の人を読みたくなるような文章とか表現で、このイベントは何かということ、訴え続けてほしい。
- ガイドブックのカテゴリ分けについて、人は何かイベントに行く時は、見たいから、学びたいから、感じるから行くのではなく、感じるものの中でもどういうものに興味があるか、美術を見たいのか、音楽を聞きたいのか、子どもたちのイベントに行きたいのかということで行くのだと思う。
- やはりカテゴリをちゃんともう1回考えて、それが新宿の発信したい文化とどういう意味付けがあるのかというのを、普通の人にわかる形で表現なされると、参加している人達が、生きてくるかなと感じた。
- FMの印刷物について、佐藤美術館でもこの倍位の印刷物を毎回作り、そのときに例えばこのパンフレット位だったら、大学、ギャラリー、美術館等関係機関に大体300や400送る。
- フライヤーだと、佐藤美術館で大体2,000～3,000送るので、事務局から今回いただいた数だと、全然足りなかったということがある。
- もっと大量に刷っていただいて、大量に送っていただければ、私たちもこのイベントに参加させていただいている立場で、汗をかいて何かできるかなと率直に思った。
- 今回初めてやって、思ったよりもいろいろな芽出しが出てきたかなという感じが、強かった。
- 行政としては多分拙速とか色々なそしりも内部ではあったかと思うが、すごいスピード感を持ってここまで走ったというのは非常に凄いことだと思う。その点は、凄く高く評価したいと思う。
- それによって1つプラットフォームができて、そこに色々な融合の可能性ができてきた。
- ネットワークとシナジー効果は別なわけだが、それが確信に変わりつつあるという感じがあって、それは大きな効果だったと思う。
- 今後だが、やはりFMは社会実験みたいなところがあり、昔は行政というのは失敗をしてはいけないということで、物凄くまじめにやっていたが、最近はそうではない。ある程度の社会実験的なものは、長期的に見た時に、より効果的な施策を打つためには許容されるという考え方も出てきていると思う。
- 4年間は予算がどうもとれそうだとしたことなので、それをうまく使いながら継続していくというのがいいのではないかなと思った。
- やはり行政ができることとできないことがあると思う。このFMに関しても、色々な方

が重層的に関わってきている。

- 区、それから少し離れた所で財団、そして協力団体、それから個人の方々と色々な方々が入ってきていて、やはり区が、これという形で決めるというよりは、その参加者の方々に自発的に少しずつまとまりができてきて、浮かび上がってくるというのか、そういうことが必要ではないかと思う。
- それから、お金の話だが、非常に貴重なお金なので、個別に助成するよりは助成制度に使ってもらいたい。特に参加団体の方々、協力される方々が直接的に集まって意見を交換するような場を設けるということが非常に重要ではないかと思う。
- こういうクリエイティブな部分は、必ず直接顔を合わせる。フェース・ツー・フェースのコミュニケーションは非常に重要だと思われるから、そういったことも考慮の上、条件整備の中でお考えいただけたらいいかなと思う。
- PRのことだが、これはもう時間がなくて、どうしようもなかったところがあるが、私達もよく調査するが、芸術文化の場合は圧倒的に口コミ、それから会員が重要。会員は、過去の参加者と言い換えてもいいと思う。
- いわゆる2:8の原則というのか、どんな著名な大きな会社でも売上げの8割は市場の顧客の2割位からだ。だから、全員に一気にアウトリーチというのは明らかに無理なので、口コミとか会員とか、過去の参加者とか団体とか、そういったチャンネルをうまく使って、効果的にということ、ぜひ考えていただければと思う。
- 行政の方々に関しては非常に頑張っていたというところは、専門部会長としてもお礼を申し上げたい。
- 参加者の方のご意志とご協力で、短い期間でこれだけのことをできたのだが、今後とも特に行政、事務局では頑張っていて、本日の会議の議論も含めて、FMの将来像や進展ということに生かしていただきたい。
- 今日は皆さんのお話で、事務局、よく頑張ったねということがあって、私もそう思うが、やっぱり少し惜しいと、少し柔らかな口調で色々ご要望もあったと思う。それもしっかり受けとめていただいて、やっていただきたいと思う。
- このような観点からも、専門部会では、今日の議論をしっかり整理していただきたいと思う。

### 3 報告事項

事務局から次の取組みについて、報告があり、了承された。

- ① 仮称) 中村彝アトリエ記念館の整備案について
- ② 新宿区地域文化財の認定について
- ③ 新宿区立新宿文化センターの年末年始開館の試行実施について

### 4 次回日程等について

第5回振興会議は、平成24年2月に開催することとし、詳細な日程や会場等については、後日事務局から連絡をすることとした。

## 5 閉会

会長のあいさつをもって、16時15分に閉会した。